

第235回研究科委員会・第341回教員会議 議事要録

日 時：令和4年8月24日（水） 13：30～15：15

場 所：後援募金記念棟 会議室1-3

冒頭、学類長から新型コロナウイルス感染状況について報告があった。最近、特にお盆明けから陽性率が非常に高い状況が続いており、引き続き気をつけて欲しいとの要請があった。

続いて、第386回教育研究評議会及び第177回運営会議の資料に基づき、大学院改革について研究科長からまとめて報告があった。最初に第386回教育研究評議会（資料1）について、現状の報告や経過措置について理工学研究科から出された2件の意見に対する回答が報告された。また、現在作成中の新大学院 Web サイトの教員一覧を確認して欲しいとの要請があった。併せて、大学院パンフレットの紹介及びスケジュールについて報告があった。次に、第177回運営会議（資料1）について、教員組織型プロジェクト研究として理工学専攻から STEAM 教育に関するテーマが提案される予定であること、学修案内作成を進めてほしいこと、研究科長の選考について予想されるスケジュールについて、それぞれ説明があった。

議 題

◆研究科委員会◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 令和4年度3月修了修士博士論文・最終試験の日程について

資料1に基づき説明があった。例年通りの日程であるが、今年度の修士論文最終試験は2日間（2月15日及び16日午前）に分けて実施、博士論文最終試験は2月16日午後に実施したいとの提案があり、審議の結果、提案通り承認された。

2. 入学試験委員会

(1) 令和4年度10月期及び令和5年度4月期入学大学院入試合否判定について

回収資料に基づき説明があった。令和4年度10月期・前期課程については、理工学専攻は受験者1名、合格者1名、令和5年度4月期・前期課程については、理工学専攻は一般入試受験者41名、合格者39名、推薦入試受験者1名、合格者1名、後期課程については、理工学専攻は一般入試受験者4名、合格者4名、環境放射能学専攻は社会人特別入試受験者1名、合格者1名としたいとの提案があり、審議の結果、提案通り承認された。最後に研究科長から、まだ定員を満たしていないので、Ⅱ期入試に向けて定員確保に協力願いたいとの依頼があった。

[報告事項]

1. 学生生活委員会

(1) 日本学生支援機構大学院奨学金返還免除者の決定について

標記について口頭で説明があった。理工学類から4名の応募があり、全額免除1名、半額免除3名となったことが報告された。

◆教員会議◆

[審議事項]

1. 学類長

(1) 客員研究員の任用について

回収資料に基づき、新規の客員研究員として1名の任用が提案され、提案通り承認された。

2. 教務委員会

(1) 令和4年度非常勤講師計画について

資料2に基づき説明があった。資料中38番の取り下げについて提案があり、提案通り承認された。

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 学生の退学について

学類生について、退学2名（旧カリ生1名、新カリ生1名）が報告された。

(2) 研究室配属希望結果について

資料3に基づき説明があった。加えて、今回決定しなかった学生について今後の決定スケジュールが紹介された。

(3) 自然再生士補資格養成機関の変更申請について

資料4に基づき説明があった。3コース（生物環境、地球環境、及び社会計画）を対象に、新カリ生用に変更申請したもので、7月22日付けで認定されたとの報告があった。

(4) 転学類・転コースについて

今年度は希望者なしであることが報告された。

(5) 第71回全学教務協議会について

(審議事項)

・メディア授業に関する申し合わせについて

資料5に基づき説明があった。今後の遠隔授業について、その定義や遵守事項、並びに開講手続きに関する申し合わせとなることが報告された。教授から出席管理について質問が出され、関連して別の教授から全学の対応状況について説明があった。意見等がある場合は、教務委員長宛に提出するよう依頼があった。

・地域実践特修プログラムの履修基準改定について

資料6に基づき説明があった。当該プログラムの修了者数を100名以上とする目標に対し、現行のカリキュラムでは「問題探究科目」において抽選科目が多いために修得単位数を満たすことが難しい。そこで履修基準表を改定（総単位数は不変で内訳のみ変更）し、修了者数を増やすこととしたい、との報告があった。

(報告事項)

・全学FD研究会の日程について

標記研究会を10月27日（木）に実施するとの報告があった。テーマは「教学マネジメント」となる予定である。

2. 奨学寄附金の受入について（学類長）

合計5件の受入が報告された。

[その他]

1. 令和7年度・入試制度改革の検討結果の報告について（学類長）

投影資料に基づき、2年前予告が必要な内容のうち、先行して公表予定の事項については、時間が限られているため学類執行部が中心となり検討したとの報告があった。続いて、評議員より各項目について追加の説明があった。教授から、理科の選択について基礎科目を残す理由について質問があった。学類長か

ら、なるべく現行の内容を踏襲しつつ、広く受験生を集めるためであるとの回答があった。別の教授からも関連した意見が出されたが、今回はこの案で全学に提出することとなった。

◆教育研究評議会◆

○第386回（7月26日開催）報告

【審議事項】

（1）大学院の改革について【資料1】

冒頭で研究科長がまとめて説明したため省略。

（2）福島大学における多様な性・性的マイノリティに関する基本理念と
対応ガイドラインの改訂について【資料2】

資料に基づき、「福島大学における多様な性・性的マイノリティに関する基本理念と対応ガイドライン」の改訂について提案があり、審議の結果承認されたことが報告された。教授から、採用人事に関して女性の積極的な採用をお願いしたいとの要請が出された。

【報告事項】

（1）就業規則の一部改正について【資料3】

資料に基づき、就業規則の一部改正について説明があった。夏期休暇の取得期間が現行の7月～9月から7月～12月と変更となり、名称もリフレッシュ休暇に変更することが主な改正内容である。

（2）労使協定の再締結について（時間外労働・休日労働に関する協定書）【資料4】

資料に基づき、労使協定の再締結について説明があった。時間外労働を月80時間以内、年570時間以内とする内容である。

（3）労使協定の再締結について（計画的休暇の取得時季に関する協定書）【資料5】

資料に基づき、労使協定の再締結について説明があった。附属中ではお盆期間中に休暇がとれないことがあり、これに対応するため8/15～17に加えて8/2～4も計画的休暇の取得時季に含めるという内容である。

（4）その他

①教員の人事計画について【資料6】

評議会では詳しい説明はなかったことが報告された。このことについて、光熱水費の高騰や物価上昇に対応するため、後任人事を凍結せざるを得ないと学長が述べていたことが学類長から補足で説明された。これに関して教授から、上昇したエネルギー関連費用を大学で賄うことは困難なので、文科省にお願いすべきではないか、との意見が出された。

②経済経営学類創立100周年記念事業について【資料7】

資料に基づき、当該事業が10/29に開催予定であることが報告された。

◆運営会議◆

○第177回（8月9日開催）報告（学類長）

【報告事項】

（1）大学院の改革について【資料1】

冒頭でまとめて説明したため省略。

（2）大学改革について【資料2】

資料に基づき、9月末締切で学類ごとにミッション再確認作業を依頼されていることが報告された。学

類長や学類執行部の意見に偏らないよう、たたき台を執行部で作成した後に将来構想検討委員会等に照会する予定であるとの付言があった。

(3) 「研究力向上アクションプラン」の検討体制について【資料3】

現在、これを含めて様々なWG委員を学類から選出しているので、WG委員リストを作成して改めて提示したいとの発言があった。

(4) 風しん抗体検査の実施について【資料4】

資料に基づき、9月実施の健康診断に合わせて検査対象者に照会があるとの報告があった。

(5) その他

①特定年俸制にかかる個別説明会の開催について【資料5】

資料に基づき説明があり、希望者は説明会に参加したい旨をメールで連絡してほしいとの発言があった。

②電気・ガス・水道使用量について(R4.6月分)【資料6】

資料に基づき説明があり、年間1億円増となる可能性があるとの報告があった。なお一層、省エネの協力を願いたいとの依頼があった。

以上